

年 頭 ご 挨拶

社団法人日本産業車両協会

会長 磯田 進

皆様 明けましておめでとうございます。

平成22年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

さて、一昨年9月のいわゆるリーマン・ショックに端を発した世界的な金融危機は、その後実体経済にも波及し、先進国のみならず新興国も含め、世界全体が深刻な景気後退に陥り、昨年の世界経済成長率は戦後初のマイナスとなりました。しかしながら、各国政府による景気刺激策が功を奏し、ようやく下げ止まりの気配が感じられるようになってきているところです。

日本経済についても、政府の経済見通しでは平成21年度のGDP成長率は3.3%のマイナスと見込まれておりますが、4～6月期からは2期連続で前期比プラス成長に転じており、景気基調判断も上方修正されました。しかし為替の動向等の不確定要因もあり、また厳しい財政事情から、政府も大型の経済対策を打ち出すことが難しく、決して先行きについて楽観できない状況であります。

こうした情勢の下、平成21年の産業車両の国内生産額は前年比約45%減少の2500億円程度と見込まれ、これは32年前の水準まで落ち込むという、きわめて厳しい状況であります。世界全体のフォークリフト市場も1～10月までで受注ベースで44%減少しており、ようやく中国やアジアで前年実績を上回るようになってきたところです。しかし日本を始め、欧米も含めた先進国市場は依然として二桁のマイナス基調が続いております。

来る平成22年度につきましても、世界経済は新興国を中心に約3%の成長が見込まれておりますが、日本については1%台の低い伸びとの見方が多くなっております。いずれにしてもプラスに転じるとは言っても、経済危機前の規模に戻るわけではなく、しばらくは厳しい状況が続くものと覚悟しなければならないと考えます。私どもといたしましては、こうした新たな経済状況の下で、業界を取り巻く環境の変化と先行きをしっかりと見据えて、強みを伸ばし、弱みを改善していくことが大切であろうと思います。

その中では、協会としてここ数年キーワードとして挙げている「国際化」、「環境」、「安全」の3点を、引き続き重点に据えていくことが必要であろうと考えます。

まず「国際化」では、従来の先進国中心の市場から、新興国にウェイトがシフトしていくのは確実で、また中国メーカーを中心とする新たなプレーヤーの台頭も見込まれるところであります。こうした環境変化に対応し、世界有数の産業車両大国である日本がこれまで培ってきたブランド力や競争力を維持、拡大していくために、政府の支援もいただきながら、業界が一丸となって一層の努力をしていかなければならないと考えます。

次に「環境」に関しましては、地球温暖化対策に関して、日本としての新たな温室効果ガスの削減目標である、2020年までに1990年比で25%削減するとの高い目標が掲げられましたが、産業車両業界といたしましても、すでに「環境自主行動計画」における、製造過程からのCO2排出量を2008～2012年度の平均で1990年度比10%削減するとの目標達成がすでに視野に入ってきたところです。さらに、新たに掲げられた高い目標の達成に寄与するためには、今後

CO2削減に貢献する製品の開発・提供に努めていくことが重要であろうと考えております。例えばフォークリフトの国内販売台数のうち、CO2削減に大きく貢献できる電動式の割合はすでに5割を超えておりますが、さらに昨年はエンジンとモーターを搭載したハイブリッドフォークリフトも発売されました。産業車両は幅広い産業分野で、そして中小企業においても多く使用されている機器でありますので、政府におかれましても、こうした製品の開発・普及に対する支援強化をよろしくお願い申し上げます。

また、フォークリフトを含む特殊自動車への排ガス規制については、平成23年から一層厳しい次期規制の導入が予定されておりますが、業界としてしっかりと対応すべく取り組んでまいります。

3つ目の「安全」につきましては、本会は長年に亘り、内外の産業車両分野の安全規格に関する審議に積極的に参画しておりますが、国際規格の制定・改正や技術の進歩に対応して、産業車両分野の日本工業規格JISの制定及び改正事業に取り組んでおり、現在8規格について審議を進め、うち5規格について原案を完成させております。

また無人搬送車について、需要の拡大を図るべく、リスクアセスメントの要求にも対応しながら、従来の速度規制に代わる新たな安全基準の策定に取り組んでおります。

さらに、特殊自動車の届出業務につきましても、先ほど述べました排ガス規制への対応をはじめとして、環境・安全に関する社会的要請や国際的な基準調和の動き、さらには法令遵守の再徹底やリコール制度の適切な運用等に関して、業界としてしっかりと対応を行ってまいりたいと考えております。

このように、今後ともグローバルな視点の下で、環境に優しい、そして安全な製品の開発と供給を通じて、業界をさらに発展させ、世界中のお客様にご満足いただけるよう努めていかなければならないと考えております。

以上ご紹介したように、私どもは様々な取り組みを通じて、業界の基盤強化と社会的地位の向上を図り、今後も厳しい環境が続くものと思われませんが、業界の発展と繁栄が遂げられるよう、全力を尽くしてまいりたいと考えております。

ぜひとも会員の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げる次第であります。

さらに、経済産業省、国土交通省、環境省、厚生労働省をはじめとする関係御当局におかれましても、協会の活動に関しまして、よりいっそうのご指導ご支援を賜わりますよう、心よりお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様のご健勝とご発展を、心より祈念して、年頭のご挨拶とさせていただきます。